

シドニー日本人学校の教育事情

前シドニー日本人学校 教諭

愛知県豊橋市立新川小学校 教諭 小野 陽子

キーワード：在外教育施設、シドニー、国際学級、教育の特徴

1. はじめに

シドニー日本人学校は、文部科学省から認定された学校であると同時に、NSW州教育省の認可を受けた私立学校である。そして、最大の特徴は、主としてオーストラリアの子ども達を受け入れている国際学級を小学部に併設していることである。日本人学級では、文部科学省の学習指導要領に則った教育を行い、国際学級では、現地NSW州の教育課程に基づく教育を行っている。国際学級を有する特徴を生かして、日豪両言語の学習をはじめ、体育、音楽、図工におけるミックスレッスンの実施、学校行事の合同実施、交歓ホームステイプログラム等、あらゆる教育活動において日豪児童生徒による交流学習の場を設けている。

2. 教育の特徴

① 教育課程

- ・日本人学級…文部科学省の学習指導要領に準拠して実施している他、小学部週5時間・中学部週4時間の現地英語（EFL）を実施している。
- ・国際学級…NSW州の要領に準拠して実施している他、週5時間、日本語学習を実施している。

② 英語・日本語

- ・EFL（English Foreign Language / 現地理解英語）

「話せるようになること」を目標として小学1年生から中学3年生までを対象に行っている。クラス編成は習熟の程度に応じ、3段階に分け、少人数で基礎からきめ細かい指導が現地の教員によってなされている。中学部はドラマ公演、小学部は英語学習発表会として、毎年各1回英語学習の成果を発表する場が設けられている。その中で、英語の話し方・発音の仕方はもちろんのこと、演技も学び、表現豊かに演じられる子どもたちの姿を見ることができる。

- ・日本語科

「日本語によるコミュニケーション能力の向上」を目標に、国際学級の児童を対象に幼稚園部から6年生まで系統だった指導をしている。クラス編成は、習熟度に応じて4段階に分け、少人数で基礎からきめ細かい指導がなされている。EFL同様に、日本語学習発表会が行われている。日本の劇を通して、日本語学習の成果や日本の文化も同時に学ぶことができている。

③ 日豪交流

I 学校行事・学年行事

基本的に合同で実施している。現地の学校に合わせ、4学期制をとっている。年に4回の始業式・終業式入学式は日本人学級4月・国際学級1月、卒業式は日本人学級3月・国際学級1月と年に2回行っている。日豪両国歌を斉唱したり、日英両語でスピーチをしたりするなど、日本とオーストラリアの式典のスタイルが融合した式典になっている。

II スポーツデー

年1回、日本の運動会と同様に行っている。学部、学年の演技や競



日豪が融合した式典風景

技は基本的に合同で行っている。大玉転がしや玉入れなど、日本でお馴染みの種目を日本人学級・国際学級が合同で行う。また、ソーランダンスの発表も恒例の出し物となっている。日本人学級・国際学級が心一つにがんばる姿は、世界でもなかなか見られない光景である。

Ⅲ スクールコンサート

各学年の合同の学校音楽会で、デイコンサートとナイトコンサートの2回を実施している。各学年歌と楽器演奏を行う。歌は、日本語・英語の両語を取り入れている。各学年、テーマを設定しそのテーマに沿った音楽を演奏し、さらには衣装も工夫して華やかなコンサートが毎年繰り広げられている。日本人のコツコツと練習を積み重ねる姿勢、オーストラリア人の明るくその舞台を楽しむ気持ちなど、お互いの良い面が出て、素晴らしい演奏に仕上がっている。

Ⅳ ホームステイ

中学部が、郊外の学校との相互交流を行っている。バディを組み、3泊4日のホームステイ、並びに現地の学校を体験する。2学期に受け入れ、3学期に訪問をする。両方を体験することで、現地の生活の様々なことが経験でき、異文化理解を図ることができる。

Ⅴ 現地校との交流

年間を通して多くの現地校との交流が在り、スポーツ交流・文化交流などを行っている。インターナショナルスポーツデーでは、近隣の学校4校が本校に集まり、かけっこや綱引きなどスポーツを通して交流を図っている。

3. 成果と課題

成果

- 国際学級を併設していることで、日本とオーストラリアのお互いの文化を理解し合うことができている。また、様々な活動を共に行うことで、日本人は英会話力・現地の子どもは日本語を身につけることができている。ミックスレッスンを通して、お互いの良い点を引き出した作品や音楽を創り上げたり、それぞれの国で人気のあるスポーツに触れたりするなど、子ども達にプラスになることが多かった。

課題

- 言葉の壁があり、分かりあえないことも時にはあった。また、文化の違いで理解し合えない場面も見られた。教師同士も同じく、カリキュラムを進めていく上で、意見の相違などもあり、授業を進めることが困難な場合もあった。お互いを理解し、異文化も分かり合って授業を進めていくことが課題である。

4. おわりに

世界で唯一の国際学級併設校と言われるシドニー日本人学校では、多くの貴重な経験を味わうことができる。日本から来た子どもたちは現地の子ども達と、現地の子どもたちは日本人の子どもたちと、互いにたくさん触れ合い、多くの学びを得ることができていた。一緒に過ごす中で、トラブルも多々あるが、それを乗り越えた時に、一つになることができていた。日本人とオーストラリア人のお互いの良い面を引き出し合って、この学校は成り立っている。教員も同様に、ここで経験したことを存分に今後の教育活動に活かすことができると思う。世界に一つだけの学校として、今後も素晴らしい学校であり続けてほしい。